

## 果樹類

### うどんこ病

#### 防除方法

1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

- ・ [エコピタ液剤](#) <—> 【果樹類(除かんきつ) 100倍 前日/—】

### 切り口及び傷口のゆ合促進

#### 防除方法

- ・ [トップジンMペースト](#) <1>

【果樹類(除もも、りんご、なし、かき、マルメロ、かりん、いちじく、かんきつ、おうとう、小粒核果類、びわ、キウイフルーツ、ぶどう、くり、オリーブ) 原液塗布 剪定整枝時、病患部削り取り直後、及び病枝切除後/3回】

### カイガラムシ類

#### 防除方法

1 下記の薬剤を散布する。

- ・ [トモノール](#) <UNM>

【落葉果樹(なし、りんご、かき、もも) カイガラムシ 16~24倍 —/—】または  
【落葉果樹(除ぶどう) 12~14倍 —/—】

- ・ [機械油乳剤95](#) <UNM>

【落葉果樹(なし、りんご、かき、もも) カイガラムシ 16~24倍 —/—】または  
【落葉果樹(除ぶどう) 12~14倍 —/—】

- ・ [石灰硫黄合剤](#) <UN> 【落葉果樹 7~10倍 発芽前/—】

### アブラムシ類

#### 防除方法

1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

- ・ [エコピタ液剤](#) <—> 【果樹類(除かんきつ) 100倍 前日/—】
- ・ [オレート液剤](#) <—> 【果樹類(なしを除く) 100倍 発生初期(前日)/—】
- ・ [粘着くん水中和剤](#) <—> 【果樹類(除かんきつ) 500倍 前日/—】

### モモハモグリガ

#### 防除方法

1 発生を認めたら下記の薬剤を使用する。

- ・ [コンフューザーMM](#)

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合がありますので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合がありますので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

## —果樹類—

【100～120本／10a (55g／100本製剤) ディスペンサーを対象作物の枝に挟み込み、  
または巻き付け設置する 成虫発生初期～終期】

**ハマキムシ類**

## 防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ [ゼンターリ顆粒水和剤](#) < 1 1 A > 【1000倍 発生初期(前日)／—】
  - ・ [デルフィン顆粒水和剤](#) < 1 1 A > 【2000倍 発生初期(前日)／—】
  - ・ [エスマルクDF](#) < 1 1 A >
    - 【果樹類(除りんご) 2000～3000倍 発生初期(前日)／—】
  - ・ [トアロー水和剤CT](#) < 1 1 A >
    - 【果樹類(除りんご) 500～1000倍 発生初期(前日)／—】

**チャノコカクモンハマキ**

## 防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を使用する。
  - ・ [コンフューザーN](#)
    - 【150～200本／10a (52g／200本製剤) ディスペンサーを対象作物の枝に巻き付け、  
または挟み込み設置する 成虫発生初期～終期】
  - ・ [コンフューザーMM](#)
    - 【120本／10a (55g／100本製剤) ディスペンサーを対象作物の枝に挟み込み、  
または巻き付け設置する 成虫発生初期～終期】
  - ・ [ハマキコンーN](#)
    - 【100～150本／10a (54g／150本製剤) 本剤を枝にかける 成虫発生初期～終期】

**ナシヒメシンクイ**

## 防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を使用する。
  - ・ [コンフューザーN](#)
    - 【50～200本／10a (52g／200本製剤) ディスペンサーを対象作物の枝に巻き付け、  
または挟み込み設置する 成虫発生初期～終期】
  - ・ [コンフューザーMM](#)
    - 【100～120本／10a (55g／100本製剤) ディスペンサーを対象作物の枝に挟み込み、  
または巻き付け設置する 成虫発生初期～終期】
  - ・ [コンフューザーR](#)
    - 【100～120本／10a (36g／100本製剤) ディスペンサーを対象作物の枝に巻き付け、

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

または挟み込み設置する 成虫発生初期～終期】

## モモシンクイガ

### 防除方法

1 発生を認めたら下記の薬剤を使用する。

・ [コンフューザーN](#)

【150～200本／10a (52g／200本製剤) ディスペンサーを対象作物の枝に巻き付け、  
または挟み込み設置する 成虫発生初期～終期】

・ [コンフューザーMM](#)

【100～120本／10a (55g／100本製剤) ディスペンサーを対象作物の枝に挟み込み、  
または巻き付け設置する 成虫発生初期～終期】

・ [コンフューザーR](#)

【100～120本／10a (36g／100本製剤) ディスペンサーを対象作物の枝に巻き付け、  
または挟み込み設置する 成虫発生初期～終期】

## コスカシバ

### 防除方法

1 発生を認めたら下記の薬剤を使用する。

・ [スカシバコンL](#)

【40～100本／10a (8g／100本製剤) ディスペンサーを対象作物の枝に巻き付け  
設置する 成虫発生初期～終期】

## シャクトリムシ類

### 防除方法

1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

・ [エスマルクDF](#) <11A> 【果樹類(除りんご) 2000倍 発生初期(前日)／－】

・ [バイオマックスDF](#) <11A>

【果樹類(除りんご) 2000倍 発生初期(前日)／－】

## ケムシ類

### 防除方法

1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

・ [デルフィン顆粒水和剤](#) <11A> 【1000倍 発生初期(収穫前日)／－】

・ [エスマルクDF](#) <11A> 【果樹類(除りんご) 2000倍 発生初期(前日)／－】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合がありますので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合がありますので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

## カミキリムシ類

### 防除方法

1 発生を認めたら下記の薬剤を使用する。

- ・ [バイオリサ・カミキリ](#) <—>

【1本/1樹 地際に近い主幹の分枝部分等に架ける 成虫発生初期/—】

## ハダニ類

### 防除方法

1 下記の薬剤を散布する。

- ・ [石灰硫黄合剤](#) <UN>

【80～200倍 夏期/—】または

【20～40倍 冬期/—】または

【落葉果樹 7～40倍 発芽前/—】

- ・ [スパイカルEX](#) <—(生)> 【2.4～12ml/樹(約48～240頭) 放飼 発生初期/—】

- ・ [システムミヤコくん](#) <—(生)>

【果樹類(施設栽培) 2～5パック/樹 放飼 発生直前～発生初期/—】

- ・ [トモノール](#) <UNM>

【落葉果樹(なし、りんご、かき、もも) ハダニ類及びその越冬卵 16～24倍 —/—】

- ・ [機械油乳剤95](#) <UNM>

【落葉果樹(なし、りんご、かき、もも) ハダニ類及びその越冬卵 16～24倍 —/—】

- ・ [アカリタッチ乳剤](#) <—> 【果樹類(除りんご) 1000～3000倍 前日/—】

- ・ [エコピタ液剤](#) <—> 【果樹類(除かんきつ) 100倍 前日/—】

- ・ [粘着くん水和剤](#) <—> 【果樹類(除かんきつ) 500倍 前日/—】

## サビダニ類

### 防除方法

1 下記の薬剤を散布する。

- ・ [石灰硫黄合剤](#) <UN>

【80～200倍 夏期/—】または【20～40倍 冬期/—】

- ・ [トモノール](#) <UNM>

【落葉果樹(なし、りんご、かき、もも) サビダニ 16～24倍 —/—】

- ・ [機械油乳剤95](#) <UNM>

【落葉果樹(なし、りんご、かき、もも) サビダニ 16～24倍 —/—】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

## 越冬病虫害

### 防除方法

1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

- ・ [石灰硫黄合剤](#) <UN> <-> 【落葉果樹 7~40倍 発芽前/-】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。